

ドクター メモ

インフルエンザ

新型インフルエンザとの戦い

新型インフルエンザが吹田市に初めて現れたのは、ことしの5月16日。このときは、府下一斉の学校閉鎖などにより感染拡大を完全に食い止めることができず、一時のとはいえ、これほど感染力の強い疾患の流行を人為的に抑制できたのは歴史的快挙だったと思います。その間、吹田市も発熱相談センターと発熱外来を設置しましたが、バックアップ体制の充実などにより、他市よりもはるかに小さなパニックでこの危機を乗り切ることができました。

夏休み後、本格的な流行がやって来ました。吹田市立の小・中学校の学級閉鎖数で見ると、8月28日の2学級を皮切りに、以後、週ごとの集計で、14、24、22、10、10、33、76、74学級の閉鎖があつたのです。途中、週に10学級まで閉鎖数が減少した時期がありますが、これは、9月19日に始まつた5連休後の2週間であり、この傾向は全国的にも認められました。事実上の全国一斉の学級閉鎖の効果と思

われます。逆に、10月10日から3日間の学級閉鎖がありました。3日間の学級閉鎖では意味がないようです。

さて、今回のインフルエンザでは多数の死者が出ています。10月23日現在、世界では5000人、米国でも10000人を超える死者が確認されており、致死率は0.5%と発表されています。一方、日本では、同日までに32人の死亡が確認されていますが、日本での致死率は0.002%程度。日本では、発症直後でも医療が受けられますし、迅速診断法や抗インフルエンザ薬の普及率も世界一ですので、それが圧倒的な低致死率の理由と思われる。11月からは、基礎疾患を有する人たちへの新型インフルエンザワクチンの接種も始まりました。これにより、致死率がさらに低下することが期待されています。